

寺に在りて寺の道院の寺寺なりてなる寺道院の住職は寺に在りて
越年あるなり寺内

○清池持現は神神と天竺梵書の家山小全毘羅神と崇め佛法擁護
の神神なり正月二日の同儀奉祝なりけり宮のうへに岩屋風成
まじりてふれりなり小飛泉あり○清池のうへに神あり民村に所在
なり

○親善堂あり本尊は子親母音なり勝道上人神様の之を本親善の
うら本親善のうへに所在なり長七尺許る中神寺に女に結界なり
は所は本親善をよと女に所在なり結界ありて之坂東十八番巡礼の札
所なりたのこの道なり○三尾村のうへに所在なり道に在り
五里程あり三尾坂通を上列へてけりけり相親善堂なり右のこの道
三所なりけり水沢村に所在なり坂を登るに石社あり○牛王坂
のうへに所在なり

○馬返は所なり半馬返へけりけり又女もこけりなり
この半で日光を二里ありて小澤ありて是橋ありて河原の石あり
を巖石ありて歩く一歩に所在なり深沢の寺あり又坂に小澤あり
有る所なり山路ありてたの寺ありて檢難なり登りて太平と云
所なり

○不動堂石像の馬返なるを半をたのふ險路なりけり藤原の及八所
はけりけり水あり

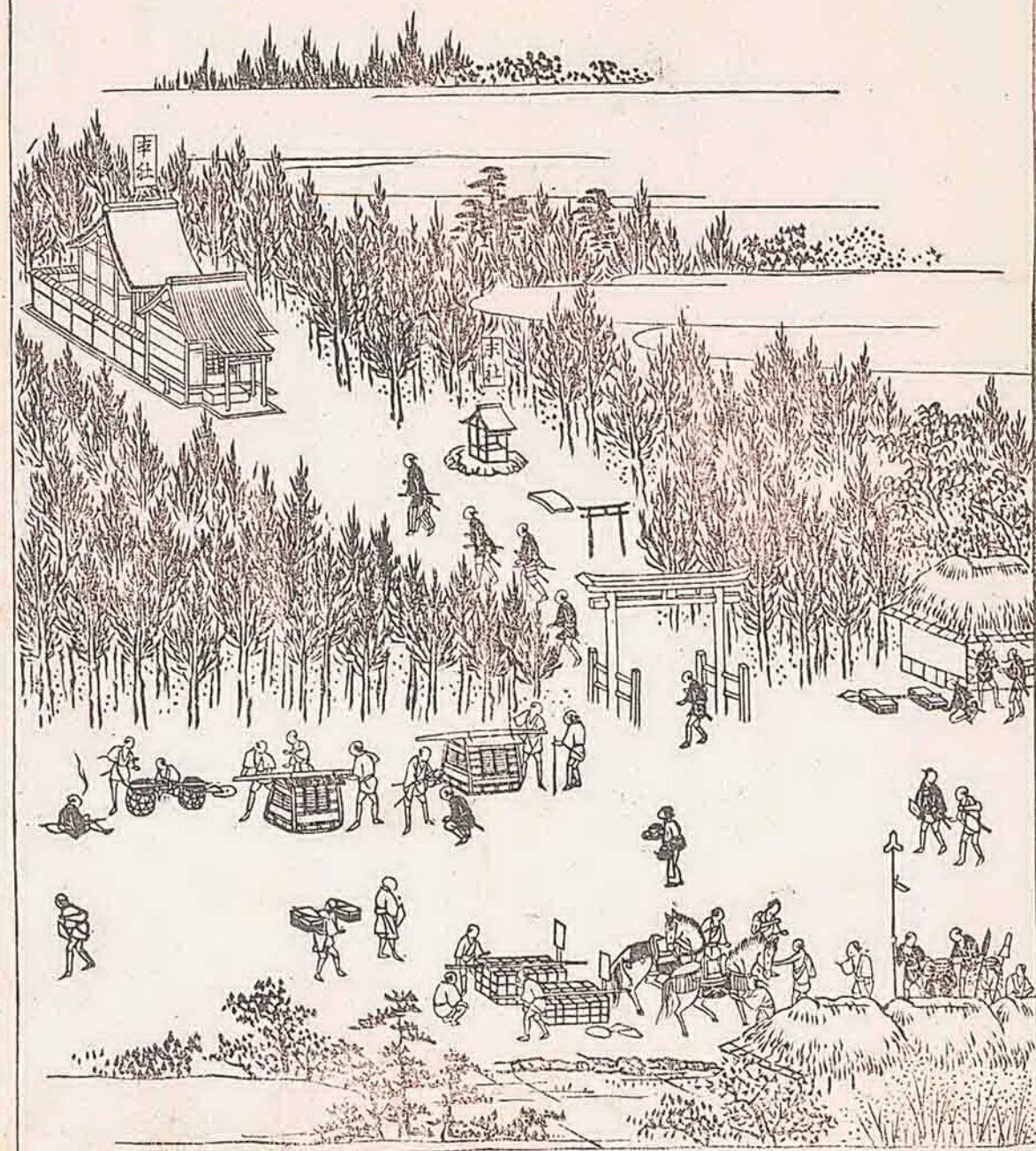
○神子石を所なりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
○牛石のうへあり半の石ありけりけりけりけりけりけりけりけり
を所在なり○折所門は所なり下系ありけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

補陀山神禪寺 三里外
別所強人なりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

ふ雲峯あり雲小天竺ありて星河半流後して霞の霜降して風舞
雲よりく環ふて春山の晴ふ作もて傳ありけりあそむる人清淨
と稱して此境ふへふりと稱する

○湖水長サ二里幅二里ありひる一里半坪の新もあり口面不整樹梢竹
ありて湖上茂樹ふとくとも其茂葉なりて水面白深まだ底知く
深けれども魚鱗なりともさるど散るけり山中小池ありて其外
中々池早八池ありやれ高山の麓におぬ池水ある半奇異也
霊地あり○溪の地極きありそ終り本の大石を今とたふ
○鐘樓○不勒堂本寺五丈明王○妙見祠又夫玉のまゝも云ふ
あり本池龍樹堂薩あり○三本親善堂本寺千手親善堂二丈
六尺ありびに天王の像あり園基勝道上人三本と其地を彫刻
なりき像坂東十八表巡禮所なり
例多し五丈の像弘法大師の清化又勝道上人の像あり

荏宮



○御本社 御殿あり 尚社大権現と日光三社の本社あり 本座を弥陀
千手馬頭延曆年中の所造なり 神室を彌慈地經一卷金字
の法華經一部八葉焼一面水牛の香爐象牙の筆架一管海龍王乃
赤衣一領と云無畏三藏の菩提子に殊勝道上人所誕生のされ天
降る陽社其外あり 毎歲正月四日武射祭とあり 社司登山
して上別赤城の方より三葉松をとり 赤城を當社の神歌なり
やうに云 赤城の神の庭より産まどもけ日まぬされ解くや
祝詞 一の矢と披とるまこれよりと赤城の産子けいふとわん
ふとのふ本社のゆづりは方に男體ふも登ふ道ありけし碑あり 經
弘法大師補陀洛山の記これあり 中古滅亡にあらざるを 准二后公辨法
親王再興し給ふ
○男體山 又黒髪山ともいふ 登山道巍々として 積雪多く 寒
風肌を徹す ○三社 梓隈山頂ふませ 四十八日のゆめて 毎年七

月七日に峯に登りけし時七月朔日より中禪寺別あり 舊より一七日があひ
けのりありて登山 三社あり なる信心をたへ人奇異の靈驗を
得るなり 男體山道に三所あり
○戒壇堂 本座あり 釈迦文殊普賢あり けし所ふ三國の土城細くやふ 本社
のゆづりあり

○根本社 ○摩伽羅天 ○山王社

○三層塔 寺あり 五智如来 ○採燈護摩所

湖水のひらきを遙く見わたる

○歌の候 こんひり 神軍に討勝なりけし所ふ 神凱陣あり 法軍に
神達より雲霧紫波風ひのふより 名付るも 本座あり 古経天衣
弥勒菩薩金剛童子あり 又本座の入堂ふ伏の宿あり 毎年三月
十二日入堂 四月廿日ふ本座にけしを 本座あり 本座とて 其
難りなりとて 向ふの山より見えゆ

○上聖傳うへさうでん 湖中こちゆうにあり一町いちちゆう終はつの傳でんなり勝道さうたうの法はふ骨こつは傳でんふ我われより

○梵字石 ざんじいし
○龍燈石 りゅうとうし
○懷石 なごいし

○千手漢 親高雲あゝびし御位所あり 幸き千手親高勝その活忙

かう毎年六月朔日より七月まで道俗一七日の修行を定むる

[illegible]

猶もあるは時を右の別所へ一殺就きおまけに松めづりて年の刈も

久
志
えふべ
うろち
うろち
うろち
うろち
うろち

○ 鳳凰水 ほうおうすい
○ 紅葉浦 もみぢのうみ
○ 夢浮の淵 ゆめうきのふち
○ 大寄 おおいぎ
○ 大屍 おおいし

○ 宇津藩 うつつはん
○ 葛蒲沼 くわぶがぬま
○ 獅子ヶ淵 ししがふち
○ 金が腸 かねがはら
其外名不詳 なごころ

○湯幸ゆりへの道みちは別所べっしよの幕張まくぢ通とほり溪谷たに一里いちりほどりて葛蒲くわふ沼ぬまふいてそ

急や
急を
あつる
紙
り
多

○赤沼原 残場原ともいふ 原 二里もあらず 青いの河 神の残場

うとく^人板^へみけ^へ色^へに

○弓張摘ゆきさうあ
○幕張まくさうふあどぞあつけ原に勢一はつさむより常小じょうこ

下^お里あるまゝは日光持現の神名ふく使令とらふ年毎ふみ成るせむ
 くらやうんぐん ーんとう ほうりめ ーいぶこ ども

離れ わかれ づ づ ち ち ゆ ゆ く く こ こ り り 傍 やう 之 之 ね ね ぞ ぞ け け 番 ばん の の こ こ 子 こ そ そ け け ふ ふ け け 祭 まつり と と 去 さ

五月のいけ^え野^の花^{はな}は^すあ^さの^さ花^{はな}と^も同^{おな}じ^な寒^{かん}風^{ふう}ふ^く吹^ふら^れて

あう
まふ
がら
暖
と
一
時
小
用
毎
も
能
も
す
じ
も
一
度

交へく盛なり真ふ仙境にありて舞ふあり舞ひ色ふ

○陽^{やう}滋^しと^とふ^ふあ^あう^うこ^こね^ね我^わ際^{さい}見^みえ^え其^そ何^{なに}そ^そう^う我^わ通^{つう}る^るに^にて

○湯元ゆゑへゆく湯守ゆゑり八軒やちんあり二月中ちゅうどん旬じゆんより九十こじゅう月の頃ころ中であひの

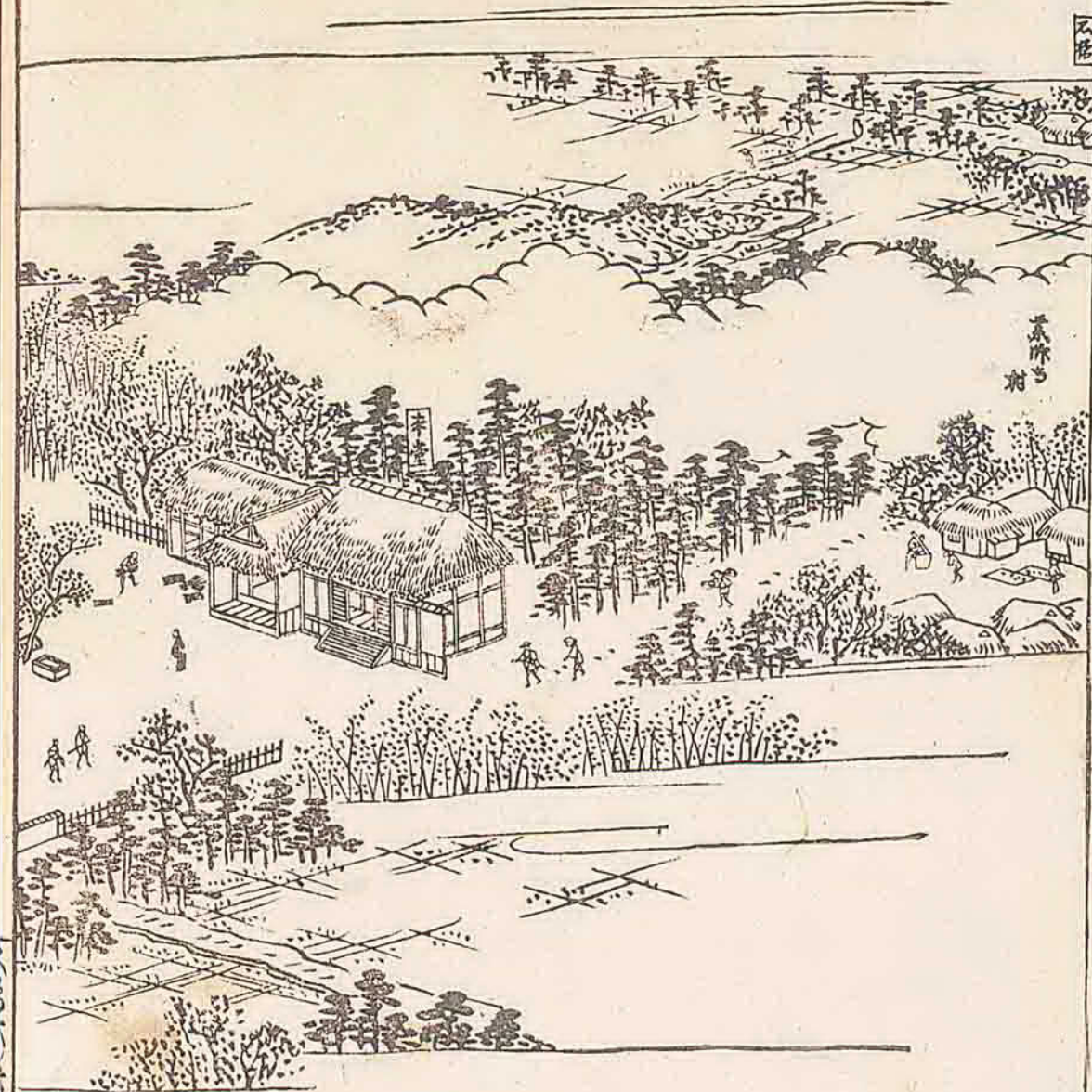
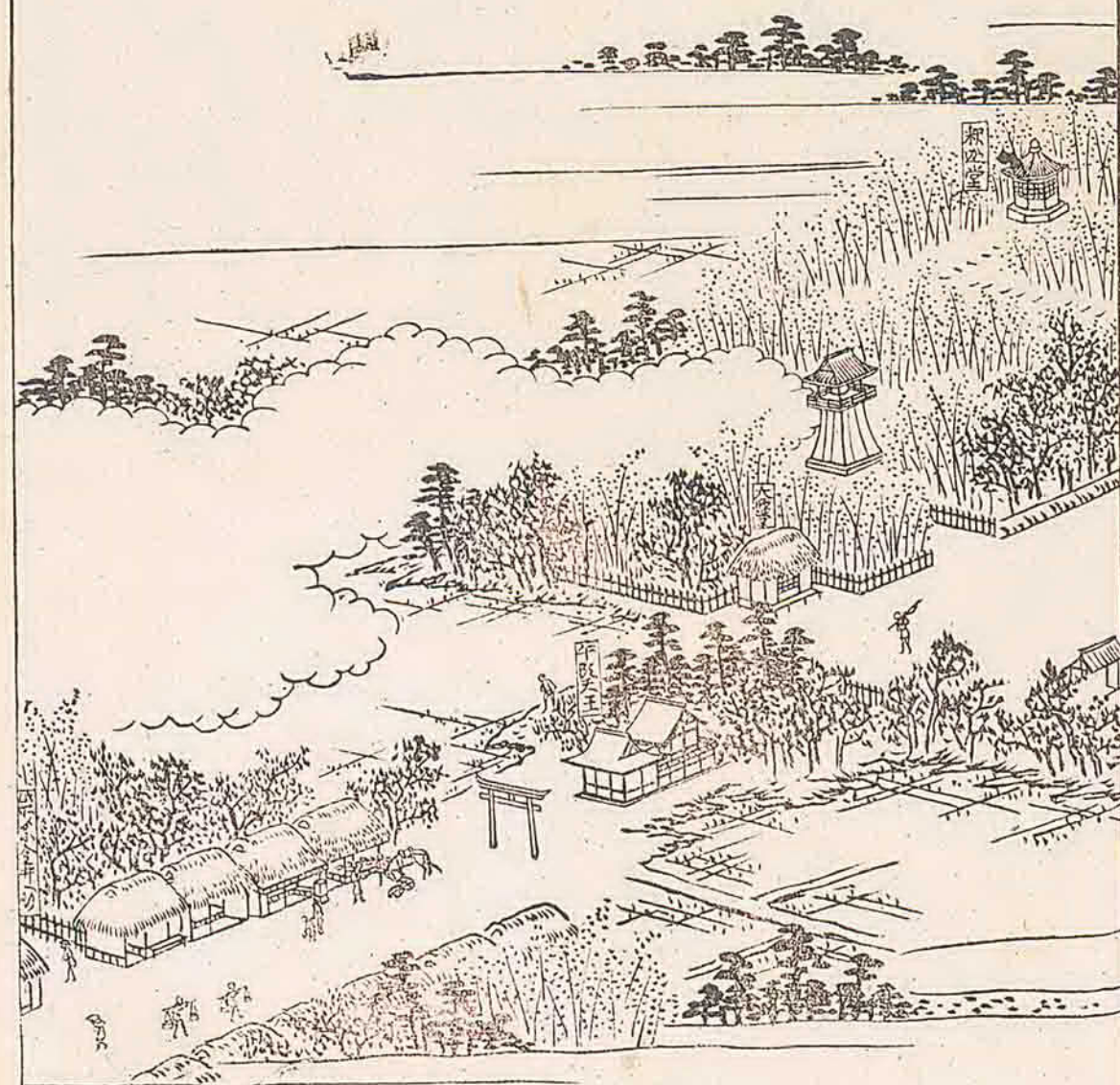
店旅舎ありて、かん安幸ト自由トあり

○ 御所湯ごしよとう へうふのめぼなり
○ 滝湯たきとう
○ 姥湯うめがゆ
○ 釜湯かまゆ

○ 自左陽 ト ぶ ち
○ 中陽 ナカ ヨ
○ 業昨陽 ウチノヒ
○ 河原湯 カワハラ ヨ

湯八平湯臺十一あり

藥師寺



は陽の功徳に諸病あり一但一りて陽も積氣と英祖と忌かり
陽臺としてを壽臺とて入陽の事年毎再祥をたがり又け色の
山の名を

- | | | | |
|------|------|-------|------|
| ○大真子 | ○小真子 | ○神山 | ○帝釋嶽 |
| ○大玉山 | ○雪山 | ○西三荒山 | ○三笠山 |
| ○赤倉山 | ○鈴嶽 | ○温泉嶽 | ○女峯山 |
| ○太郎嶽 | ○月山 | ○白根山 | ○湯殿山 |

男體山のゆれく後より出羽の湯殿山を擇せり夏陽を以て云
祇勒といふ所より裏見嶽の道より坂通をゆく

○義農院に神を中孫との降臨して大尾神子名の所より又六間ゆき
けけの湖水の流ありけ色の大尾泉にて樹林繁茂する中より流る
数百の布衣さくぐぐ其尺天をばくぬる高冷くして寒く
李白の言ふ花流直下三千尺疑是銀河落九天をばくぬるハこの泉

泉母を比せんや其流を降るる小目るめれ再びる事終るに流の
やくりの奇樹靈妙多くて花よりく咲く妻事なりけ所より

○大平不動堂の下へゆき

右の條く日光山中の靈境梵宮なりけを再往してめがれた如く五
六日も停るもやれぬ妻くけ所一往一續古事談云下野園二荒山の
嶺本湖水あり廣さ千町なりけ流くもある幸多しけ樹林に方あたる
せりども本葉一つあり浮やけ又魚をけ若く魚を放ては則ち流る
まき物とて二荒の権現山嶺よりすき流る

○日光名物名制教

慈悲心鳥 慈悲心とありけ即權よりけ大あり尾長く足直
形もよく又三光あり尾長く是よりけ事なりけ月日黒く
とあり尾長鳥とて遠里又けらとありけ鳥のたれさかりいんこふ
似たり家本鳥けけはたもてつたもてふそれめあわばあ



駒島 鶴 山 雉 栗 龍 り ぎ 魚 井 い づ か 山 登 け じ ょ う
 魚 鱗 あり 又 州 本 木 日 光 蘭 日 光 生 苔 百 合 草 種 く 石 南 花
 白 根 葵 白 根 人 参 英 連 日 光 萩 千 子 厚 皮 岩 松 苦 枳
 石 斛 岩 草 す じ 茸 柑 茸 菓 蕈 山 獨 活 山 椒 皮 川 海 苔
 あ け び 烟 鬼 の 子 素 麩
 名 製 衣 の 類 々

日光膳 日 ぬ り きの 曲 物 挽 物 指 物 箸 匙 日 光 漬 其 外 也
 日光神橋より諸方へ道法
 御宮、七町 龍尾、十八町半 清徳、一里
 御霊屋、十二町 寂光、一里 裏見滝、一里半
 新宮、十町 倉満、十三町 中禅寺、三里
 霧降滝、一里半 びね池、十三町半 湯殿山、三里半
 中禪寺湯元、六里 川俣湯元、八里半

足尾、六里 上州妙義山 修 香 保 榛 島 山 多 人 け 小 寺
 け 足 尾 の 方 へ け 妙 義 山 中 寺 七 里 餘
 日光より御府へ物道二筋あり壬生通を今市より板橋まで式里
 板橋より麻沼(式里二十町)麻沼より赤松原へ式里赤松原より壬生、
 三里十八町壬生より飯沼へ式里赤松原より小山へ式里半
 宇治通を日光跡石より今市まで式里
 け 同 校 の 列 掛 多 く 一 々 所 々 小 民 衆 あり
 今市より大沢まで二里
 け 大 沢 の 方 へ け 大 沢 山 中 寺 三 月 の 末 まで
 雪 あり 日光山より大沢へ一は二里に七つの里あり岩手村小尾掛あり
 大沢より徳沢まで式里半
 大沢から列掛あり石のふたがせ山あり甚だ平なる山あり
 大谷親吉より大谷親吉のふたがせ山あり

○徳次郎より宇都宮まで式里半

け街屋竹本不自由より人寄りの民衆に成るる家あり一塔小蓮
と名く庭を其所の人の幼少よりあひく風雲にやられ客人を
みかふありおと宇都宮より栗橋まであり日光より宇都宮
へとありけりこれより江戸まであり一宇都宮より日光へ見せし
より江戸まで式里十六町あり江戸よりけり新やせの奥の街屋に
少人馬の往来きげく狹自由より合衆も東海道路をわけ
ども多う人宇都宮の城下廣く町長く徳安人多うけ國の都
會なりと我是より江戸鶴道小列樹の紋より九式里半あり

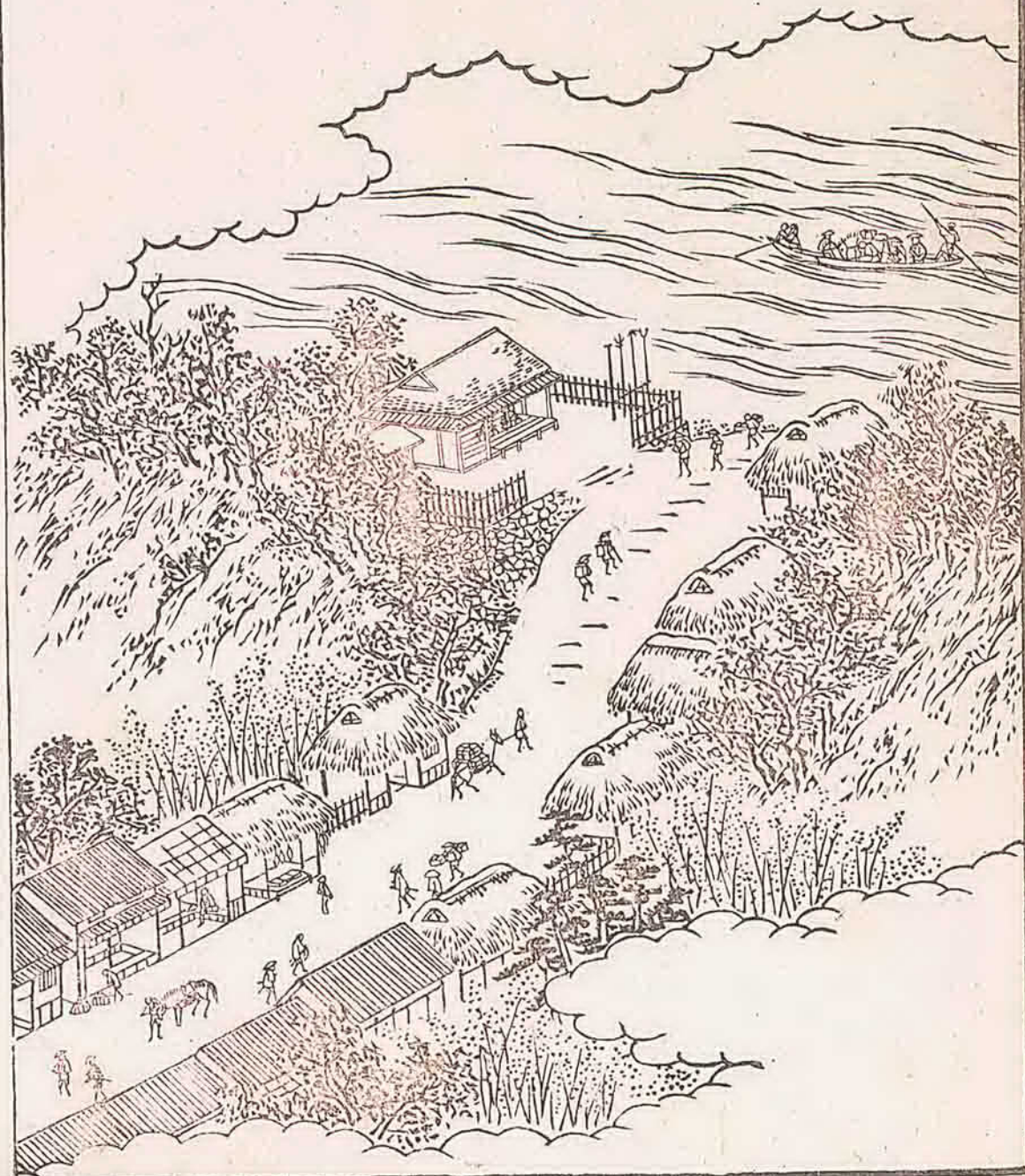
○荳宮より石橋まで一里半五所

け國も列樹の紋より一民衆所あり

○石橋より小金井まで一里半

石橋より栗半より小金井より小蓮寺あり即其列竹葉

栗橋
關隘



昨寺村とらむひつーハ下野の薬師寺とて大寺なりひつー慶帝室
字五年初く戒壇城薬師寺を親王宮内に建てり幸え亨親
書より見えてつるん天下に戒壇ありー寺南都の東大寺院前の親
世音寺下野の薬師寺は三箇所ふのそ有くけ外ふ建ふ事伝ゆる
されど弓削道鏡も称徳天皇崩御の後左遷せられけ寺の別当ふ
形つーとらふ今い終の小寺とある

○醫王山薬師寺

村ふあり 長五尺許

開基鑑真和尚 現自筆の

其外什室より弘法大師の筆に大般若經 三百九十六巻

又晋賢像古筆唐画なり

け寺院ひつーい教をさす勅願所ありーが薬園を建てて藪とある

形つーい世極う時多きとて今いふーけ村宮とあるれと并々とーと

解脫の空門みへふれ縁境もいひつる

け通より常陸の筑波ふんやふ山嶺二つあり高山あり富士ふ山とわ

あつー九里とらふ有都とされとを江戸までの間みけつー外ふとて

武蔵下総下野の國中にふ形つーみか平原の地ありと小坂ありとあ陸奥

ふ多し筑波ふんやふ山嶺とらふ北ふ山とてあり其麓を藤

崎とらふ水戸とらふと其ふなりと下総國と武蔵のやうなりと下野

とてとらふと常陸と下総の東ありと下野と下総の西にありと

け國の記されけつーに桃李の花甚多し桃李の花を幾内かの桃李より色濃く

うかりと桃李の花も赤と西の方れより赤れ色さつて白と赤と

乃のかりと桃李を貴と常陸西國の桃李れれとらふのそ見えけつー

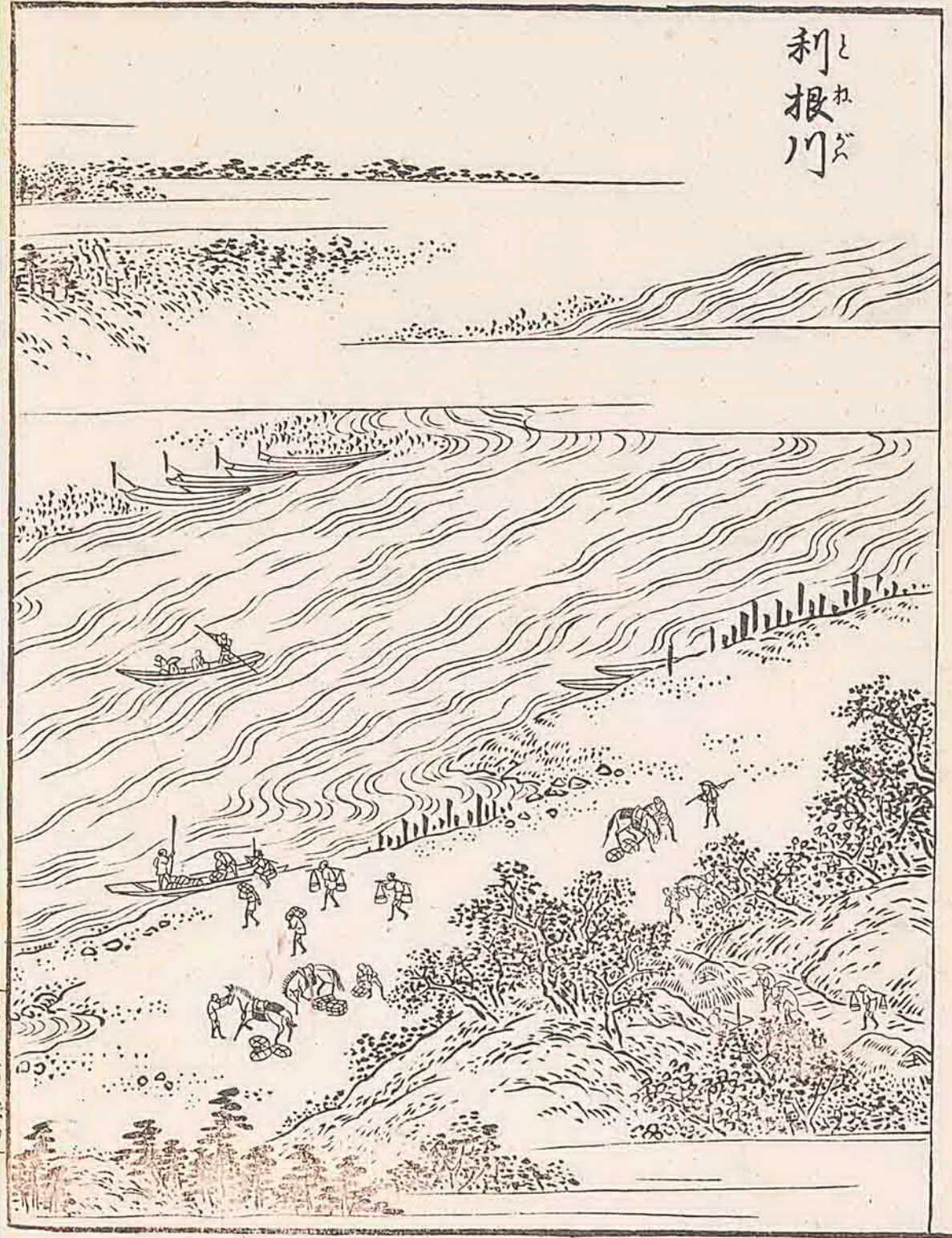
くこひーにけあつて桃李の色もあつてけとて実りと思ひあつて

とて思ひあつて花も赤と大梅も花とらふけとて思ひあつて

見えけ寒國なりとあり

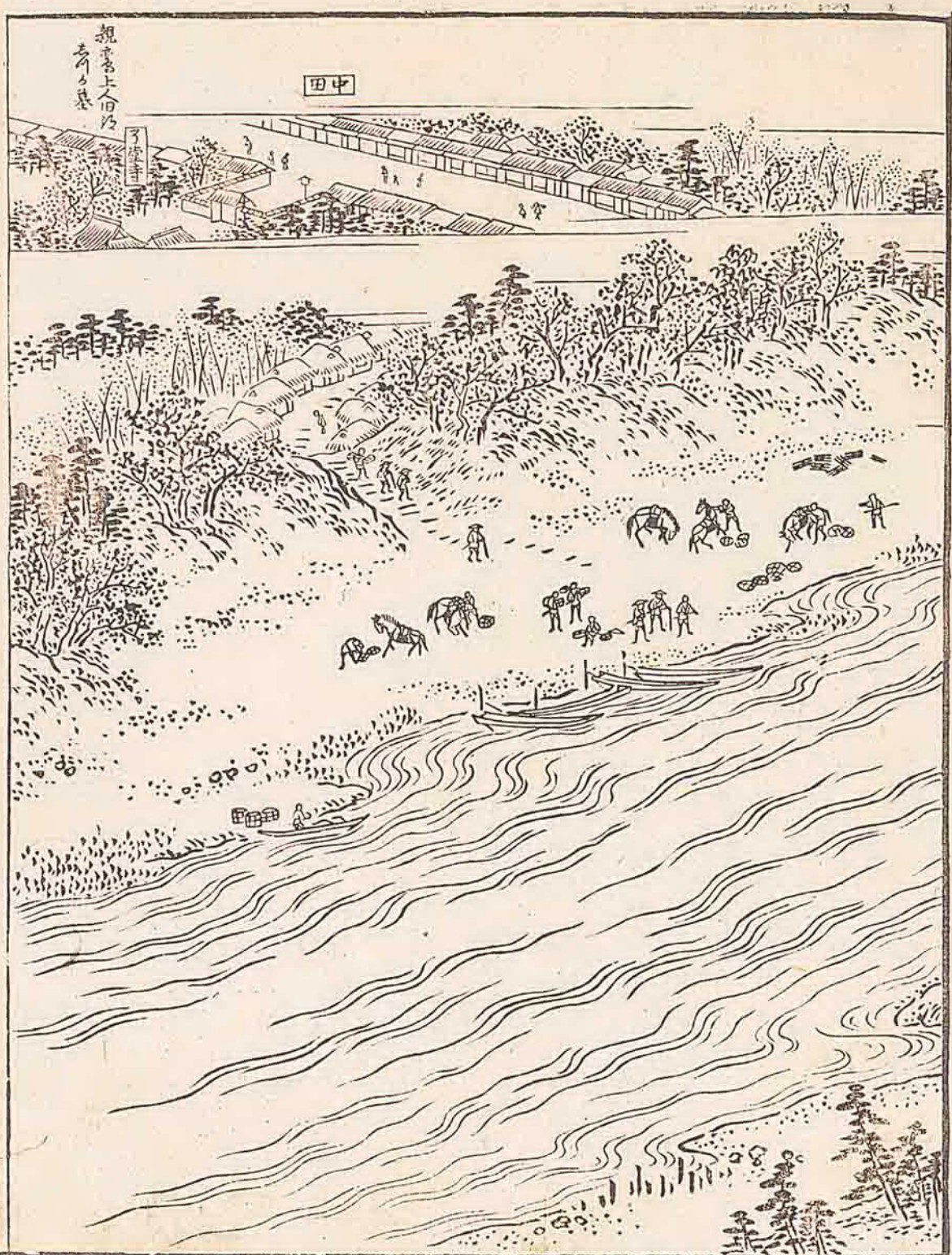
已上貝原氏乃
日光名勝記小出

利根川
とねがわ



田中

親書上人の
舟



○石橋より小金井まで五里半

小金井の道より半里東に千葉とふ所有民材と千葉助が居る

○小金井より新田まで式十九町

○新田より小山まで五里半

○小山より同く田まで五里半六町

小山の町長一町のあふ古城の跡あり小山割官以承代々小山氏の居
城なりと云ふは田むらゝ久事廣り新く町中に新く寺院あり
と云ふは結城と小山のき里半にあり町ありては地と下所常陸
武蔵の二ヶ處に分属しと云ふ古城の跡あり結城氏代々の居城なり今と
水井原を方八千石領し結城と安穩と云ふは新割ありと云ふは
玄翁和尚那須野の報生ん成新し居ひ一町の袈裟衣や水晶の珠救世
やして今あり
小山より小の方の暖所之田畠ありと云ふは右も小背遠なり南小

東西幾里よりふ事成志は林園もあり奥列境まで杉の木の茂る
南園を下毛野と名は市一里と云ふ事やと云ふ

○同く田より田本まで五里三十五町

宇都宮城より同く田より下野と下総の界なり

○田本より右河まで五里

は同松の列樹長

○右河より栗橋まで五里半

右河の町長一土井大炊頭侯七万石成りては城下の町乃其れ
橋を通ふは城と道より見ると右河の町端より利根川のつらあり
は河より右河は城なり右河のつらなり名は右河なり許家乃
渡と云ふ

万葉
後白
はくはれはの渡なりと云ふ事なり
後白
萬葉
はくはれはの渡なりと云ふ事なり
後白
萬葉
はくはれはの渡なりと云ふ事なり
後白

○桑橋より幸ふまで貳里二町

桑橋小園吏所ありは岡より右の方小利根川あり坂東第一の大
河よりうづもつてもけあつた人坂東を即ち上野の奥沼田より流る
上野下野武蔵下総流る隅田川よりうづもつて海へ入

桑橋より幸ふまでいふより幸ふより槽壁までいふ方（ゆ
槽壁よりいふより幸ふまでいふ方）

○幸ふより松戸まで壹里半

○松戸より槽壁まで壹里半

○槽壁より越谷まで貳里八町

は日る槽壁より宿にけりより子母の方小園宿より新あり久世大和
守彦の居城より五万八千石なりは槽壁のよりけり不動院連
岡東の山伏の司あり

○越谷より草加まで壹里廿八町

岩槻より越谷より二里半あり大呂丹後守彦の居城より二万石あり

○草加より千住まで貳里八町

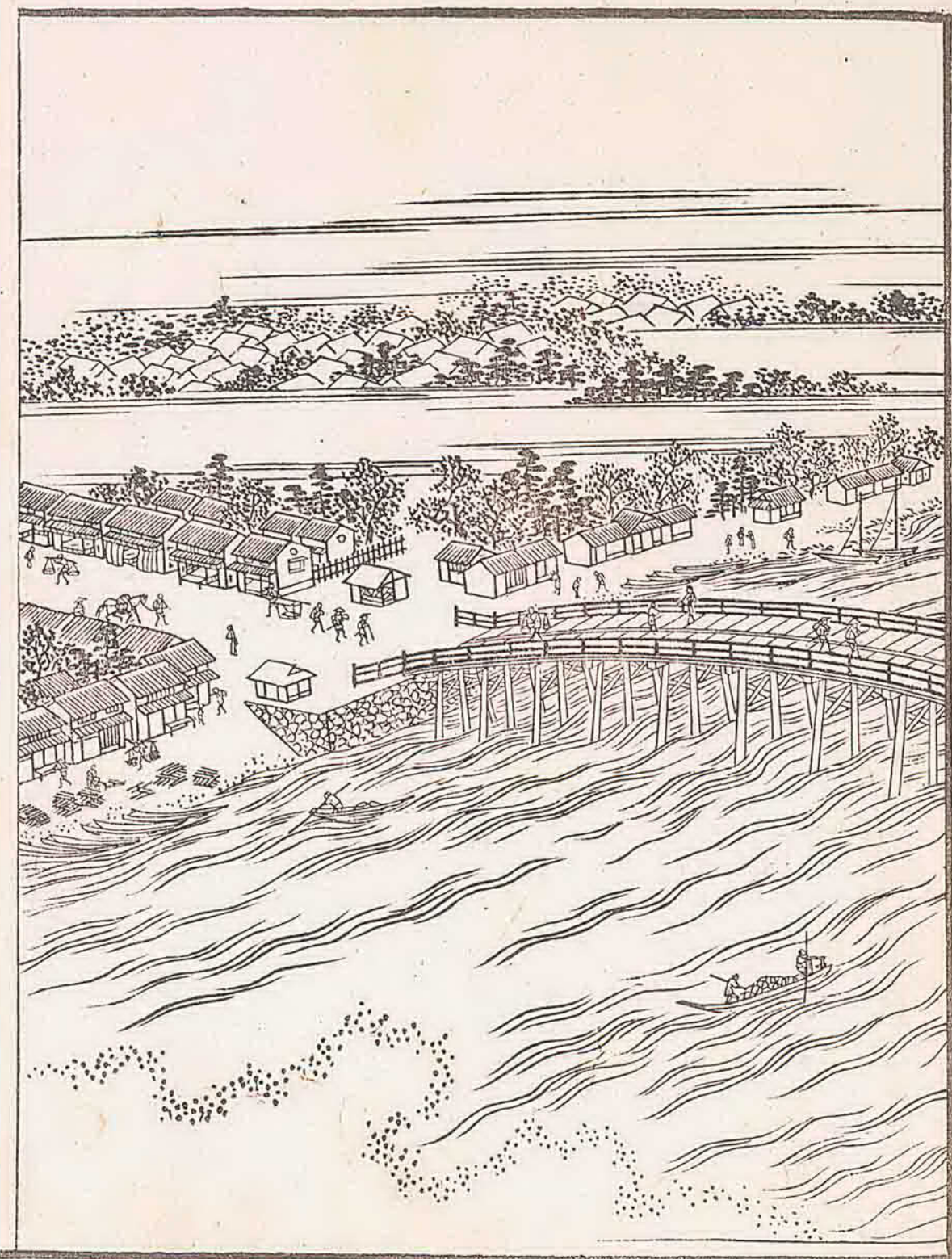
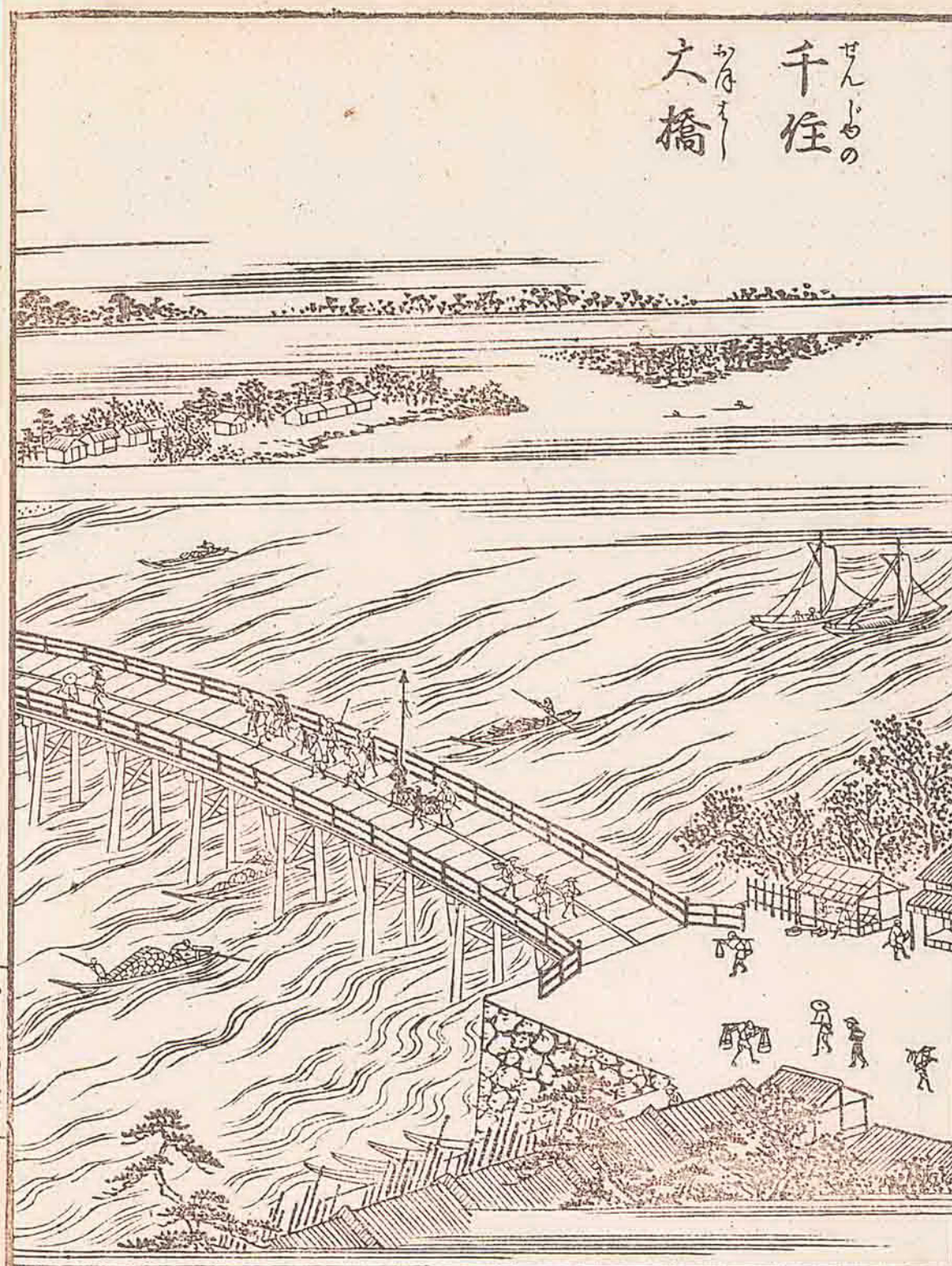
草加の西に方に鶴沼まで廣サ貳里の池ありは街道より見えは
千住よりいふ日幸橋まで貳里八町

千住の駅より遊女の店ありあり宿中小大橋あり中へ回
荒川舟架にまゝ兩國橋の流るこれよりいふより大呂丹後守彦の
三谷の町にまゝ新嘉越町あり日幸橋よりいふ荒川の池あり
け下の方新嘉越町あり

○金龍山法草寺

奉尊親世音 孝徳天皇大化元年八月門勝海始は寺法系創
又奉尊親世音 孝徳天皇大化元年八月門勝海始は寺法系創
六年二月十八日漁師捨建漢成武成より三人法門河小綱紙より
怪しむるものなり則ち是より親善の寺像く不思議の心と

せんぶの
千住
大橋



あまがき 葛城の山を極く一飯の草堂と並び安んじけり今の一様現に
 二社権現と云ふ又十社権現と今に葛をとりて草堂に並び権現天
 の社ありこれの園東三神天の其一なり慈世聖徳社圖魔堂石像の災
 災大黒天と弘法大師の地神明の社五帝經緯堂後梅隨身門と門毎
 年正月十六日ありてふ神傳門の教等海堂の号又山門の
 傍ふ慈光寺と稱す神と高所の地まの移ありと又明王院あり
 姥が枕の石ありとあり辨天の廟ありの姥が娘をうけり其外子院
 二十箇寺あり

○真土山 又傳乳山と書く山よみ聖天宮あり山を下を

○聖天町と云ふ 又傳乳山と書く山よみ聖天宮あり山を下を
 儀草川の流あり

○儀草川 宮の川も間田川とも云ふ上を荒川と名づく千代川
 此より法華見附をへて横山所能町大傳馬町幸町を過る

武蔵野

武蔵野の山は日幸橋より至る

日 武蔵野の山は日幸橋より至る 貴之

日 武蔵野の山は日幸橋より至る 通光

日 武蔵野の山は日幸橋より至る 大政大臣

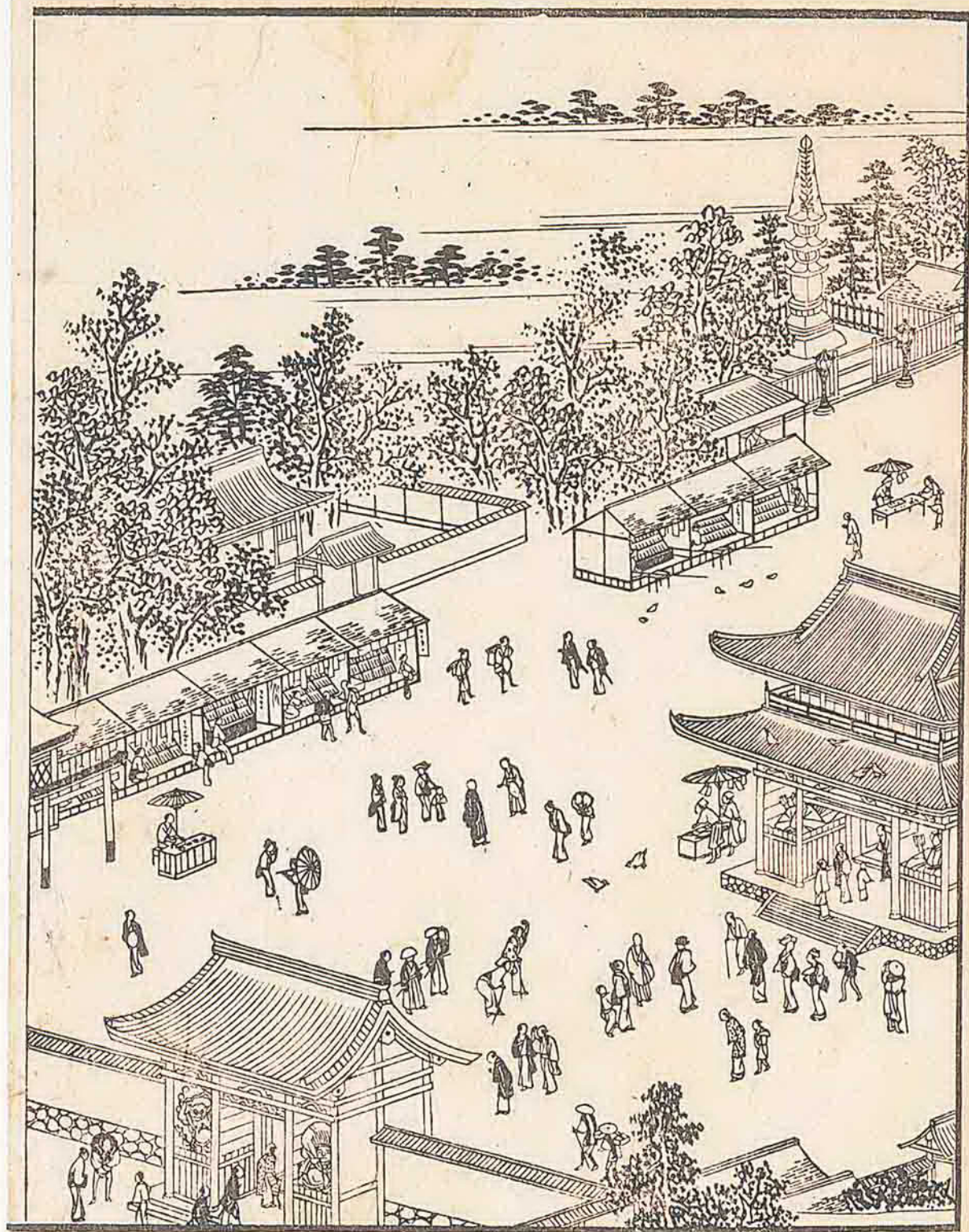
日 武蔵野の山は日幸橋より至る 通光

日 武蔵野の山は日幸橋より至る 通光

日 武蔵野の山は日幸橋より至る 通光

日 武蔵野の山は日幸橋より至る 通光

日 武蔵野の山は日幸橋より至る 通光



新拾

日

新後拾

日

日

新後拾

續拾

奇林

新十

丈本

霞が關

續載

日

從二位

家隆

後東の

漢人

定家

華家

定家

大御院
御製

昭昭

昭昭

好忠

赤大納言
如世

從二位
如子

新古

向丘

新勅

後古

五系

丈本

堀井の井

千載

漢人

小町

知家

定家

源

後成

法橋西邨中



大坂書林

京都書林



和泉屋源七
河内屋儀助
今津屋辰三郎
和泉屋久右衛門
塩屋喜助
小川多左衛門
善屋儀兵衛
升屋藤兵衛
菱屋三郎右衛門
越後屋清太郎
美濃屋小兵衛
西村吉兵衛

